

# 聖観世音菩薩

## 十一面観世音菩薩

當山本堂の内陣正面、須弥壇しゆみだんの右方には聖観世音菩薩しようかんせおんぼさつ、内陣左方には十一面観世音菩薩じゆうちめんかんせおんぼさつがいらっしゃる。「観音開き」(観音様が安置される厨子ずしの扉に由来するという)などと一般に使われる言葉としても定着するなど、我々にとって非常に馴染み深い仏様である。

### ・名前について

観世音菩薩は梵名を「アヴァローキテーシユヴァラ」といい、細かくみると「アヴァローキタ」は「観」、「イーシユヴァラ」は「自在」という意味である。そのまま漢訳すると「観自在菩薩」となり「我々の世界を観察して、これを救うことが自在である」、換言すれば、如何なる祈りもすくい取り叶えてくれるという意である。この訳を採用したのが、かの有名な三蔵法師と称される玄奘げんじょうさんぞう三蔵である。玄奘以前の漢訳では「観世音菩薩」となっている。「世音」とは、我々の祈りの音、声のことである。それぞれを新訳、旧訳くやくと呼ぶが、現在は旧訳である「観世音菩薩」が一般的になっているように思われる。何故、完全に新訳に移行されなかったかについては、通称『観音経』と呼ばれる、現在も様々な機会に読誦されるポピュラーな経典が、「観世音」の旧訳であることが関係しているとの説がある。この経典には、観世音菩薩が人々の求めに応じて、三十三の様々な姿に変化して救って下さると説かれている。

### ・六観音について

様々な姿に変化する観世音菩薩であるが、六道の世界それぞれで迷い苦しむ人々を救って下さる観音様のことを特に「六観音」という。聖観音(地獄せんじゆ)、千手観音(餓鬼ぼどう)、馬頭観音(畜生)、十一面観音(修羅じゆんてい)、准胝観音(人にょいりん)、如意輪観音(天)である。(天台宗では、准胝観音に代わって不空罽索観音ふくうけんじやくが入る)當山では、本堂後方の擁壁頂上に、石造りの六観音建立を発願しているが、本堂内にいらっしやるのは聖観世音菩薩、そして総丈十尺の十一面観世音菩薩である。

## ・聖観世音菩薩について

前述のように、観音様は六観音を始として求めに応じて様々な姿に変化する仏様である。その根本となるお姿が、この聖観世音菩薩である。表現を変えれば、十一面観音も千手観音もすべて、この聖観音が変化したお姿なのである。その身は宝飾等で飾られているが、これはインド王侯貴族（出家前の釈尊もそうである）に由来するとされ、あえて成仏せず、全ての存在の救済を誓う

「菩薩」共通の姿である。左の手にはつぼみ蕾の蓮華を持っている。蓮華は悟りの心の象徴であり、これがまだ蕾であるということは、あえて成仏せずという菩薩のせいがん誓願を象徴しているのである。

## ・十一面観世音菩薩について

特徴は、その名前の通り十一面の多面のお姿であることである。我々の祈りの音を一つとして逃さず観るといふ観音様の誓願、功德の具現化として多面であるとされている。多面であればあるほど目が行き届くということであろうか。それぞれ、慈悲の相、瞋怒の相や笑みを浮かべている相もある。救う対象によってその表情が違ふのである。また、観世音菩薩が如来として成仏した姿が阿弥陀如来であるとされていることから、頭頂に「化仏」と呼ばれる阿弥陀如来がいらっしゃることも特徴の一つである。換言すれば、阿弥陀様が我々に直接働きかけて下さる時のお姿が観音様なのであり、そのことを化仏は暗示しているのである。當山では、左の手には水瓶と蓮華を持っているが特殊な例として、右手に錫杖を持つ十一面観音がいらっしゃる。総じて長谷式と呼ばれ、総本山長谷寺のご本尊様がまさしくそれである。

## ・ご利益について

ここまで何度か述べているように、我々の祈りの声の一切をすくい取り、叶えてくれるという観音様の誓願そのものがご利益でもあるわけであるが、ここでは特に十一面観音の経に説かれるご利益について述べてみたい。そこには「十種勝利」という、十の利益が説かれている。じゅうしゅうしょうり

- ① 身体が健康である。
- ② あらゆる仏に憶念される。（心に留めて忘れずにいてもらえる）
- ③ 衣食、財物が自然に備わる。
- ④ あらゆる敵に打ち勝つ。
- ⑤ 慈悲心を起こさせる。
- ⑥ 毒虫や熱病に侵されない。
- ⑦ 刀杖（とうじょう刀剣類の総称）の難に遭わない。
- ⑧ 火難に遭わない。
- ⑨ 水難に遭わない。
- ⑩ 横死しない。

また、「四種果報」という利益も説かれる。

- ① 臨終に仏を観ることが出来る。
- ② 悪趣あくしゅに生ずることが無い。(地獄などの世界)
- ③ 非業の死を遂げることが無い。
- ④ 極楽に生まれることが出来る。

これらの利益をみても、如何に観音様がこうだいむへん廣大無辺な力を持ち、篤い信仰を一身に集めた仏様である様分かる。それと同時に、数多くの利益は、敬虔な観音信仰により数多くの人々の人生が潤い満ちたものになった証左でもあろう。そしてついには、自身自らが、観音様が我々に沢山の利益を与えて下さるように、今度は我々一人ひとりが他の為に尽くし与える「菩薩行」ぼさつぎょうに進ずることによって、我々の心にある蓮華の蕾がようやく花開くのであろう。

・縁日

毎月十八日

・真言

聖観世音菩薩

オン アロリキヤ ソワカ

十一面観世音菩薩

オン マカ キャロニキヤ ソワカ

